

日本東京同文書院編

中國省別全志

18

鐵雲書局

日本東亞同文書院編

(第十八冊)

中國省別全志

綫裝書局

第九卷

湖北省

(二)

大正七年

一九一八年

東亞同文會



# 第六編 主要物産及商業慣習

## 第一章 湖北省に於ける棉花

### 第一 棉花と漢口の地位

漢口は其の位置四通八達の要衝に居るのみならず、其の商圈とも稱す可き湖北、湖南、河南、陝西等は棉花の産地として有名なり、是を以て漢口は支那に於ける棉花の大市場たり、而も其大部分は漢口を中心とする湖北産なるに想到せば、棉花市場としての漢口の地位亦大なりと云ふ可し、故に湖北棉は即ち漢口棉にして、漢口棉は支那産棉の總稱とも見るを得べし。

### 第二 産地、品質、種類、産額

産地 湖北棉花産地の主なるもの次の如し。

|    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 襄陽 | 樊城 | 棗陽 | 監利 | 朱河 | 江陵 | 江口 | 沙市 |
| 枝江 | 董市 | 廣濟 | 武穴 | 龍坪 | 黃岡 | 新洲 | 陽邏 |

|     |     |      |     |    |     |     |     |
|-----|-----|------|-----|----|-----|-----|-----|
| 岐亭  | 麻城  | 宋埠   | 中館驛 | 蕪水 | 巴河  | 大冶  | 黃石港 |
| 武昌  | 葛店  | 嘉魚   | 簪州  | 龍口 | 江夏  | 興國  | 蒲圻  |
| 漢川  | 田二河 | 脈旺嘴  | 分水嘴 | 沔陽 | 仙桃鎮 | 新堤  | 彭家場 |
| 長埠口 | 通海口 | 下查埠  | 漢陽  | 蔡甸 | 沌口  | 黃陂  | 方家集 |
| 許家礮 | 孝感  | 咸三又埠 | 徐家河 | 天門 | 岳家口 | 乾鎮驛 | 皂市  |
| 雲夢  | 應城  |      |     |    |     |     |     |

等にして近來漢口の輸出貿易旺盛となるに従ひ、湖南、陝西の二省は勿論京漢鐵道開通以來は、遠く河南省の北部及び直隸省等の北支那棉の一部をも吸集するに至り、毎年多少の入荷を見る、其勢力圏に屬するものを見るに、江西九江、湖南省常德及津市、河南省許州及彰德、直隸省邯鄲、陝西省西安等なり。

**品質** 漢口に集散する棉花は之を細絨及粗絨の二種に大別することを得、然れ共產地廣く其地に依り異なるものあるを以て、粗細中間物もあり、今左に細、粗及半細として其品質を記さむ。

一、細絨 纖維細きものを指す、支那棉花として比較的毛筋長く、亦純白に近きが

故に紡績用として最も歓迎せらる、其額は平年ならば漢口に來るもの優に三十萬擔ありと稱せらる、而して此種に屬するものゝ產地を擧ぐれば、

(イ)湖北省北部の廣水、隨州、棗陽、樊城、老河口方面にして何れも陝西綿に比すれば品位劣れり、即ち此の地方產の缺點は繰法粗雜のため、棉實混入し、又時としては夾雜物の混入せる爲め、紡績會社の苦情を招く事あり、此内老家口綿は最も劣れるが如し。

(ロ) 陝西省中部三原、渭南、西安、及其他の產にして漢口に移出せらるゝもの約七割を占め、漢口に於ては陝西產最も歓迎せらる、然れども十年前迄は其の聲價今日の如くならず、產額も遙かに少かりしが、近年上海紡績の發達に伴ひ、急激に需要を喚起せり、而して其特徴は水氣無さに在りと雖も、惜むらくは色澤不同の傾きあり。

(二)粗絨 纖維太く、且つ短く洋種輸入前の支那棉花の通性とも云ふ可きものにして、產地に由り種類雜多なり、其の甚だしく纖維の太くして短きは到底紡績用を使用し難きを以て、蒲團綿として用ゐらる、然れ共日本への輸出額は決して侮

る可からず、今漢口に集來する所謂粗絨の額を見るに、湖北產平年三十餘萬擔に達し、其產地及割合は、

(イ) 湖北產

|       |                         |          |                         |         |                         |
|-------|-------------------------|----------|-------------------------|---------|-------------------------|
| 孝感、雲夢 | 一〇、〇〇〇 <small>擔</small> | 荊州及新堤    | 一〇、〇〇〇 <small>擔</small> | 禮河      | 二〇、〇〇〇 <small>擔</small> |
| 武昌    | 二〇、〇〇〇                  | 西河(漢水流域) | 二〇、〇〇〇                  | 蔡甸      | 二〇、〇〇〇                  |
| 葛店    | 一〇、〇〇〇                  | 朱河       | 五〇、〇〇〇                  | 江口(沙市棉) | 三〇、〇〇〇                  |

孝感、雲夢產は湖北棉の中等に位す、但雲夢棉は孝感棉に比し稍勝れり、武昌產も稍類似す、葛店棉は例年一番走りを以て有名なり、荊州及新堤產は湖北棉の中等級に居る、西河產は品質寧ろ上等に屬すと雖も、由來水氣多量なるを以て聲價大いに下る、朱河、禮河、蔡甸棉は中等級に屬するも、時としては水氣を多量に含むものあり、頗る吟味を要す。

江口棉は沙市棉とも稱し、上等品尠からざれども、概して中等以下なり、此棉も時に多量に水分を加へらる事あるが故に吟味を要す。

(ロ) 河南產 產額十萬擔の内七、八萬擔

此の種の産地は彰德府にして、水氣少きを特徴とす、品位は區々にして、實物検査を要するも、色澤概して純白なれば、紡績用として需要あり。

(ハ) 湖南産 産額八、九萬擔の内七萬擔

有名なる産地は津市、常德等にして、品位は湖北の上等綿に匹敵し、色澤反つて之を凌ぐものあり、特に湖南産は民國三年には甚だしき増加を示せり。

(ニ) 直隸山西産 民國四年頃より初めて漢口に出荷したるものなるを以て、聲價定まらず、品質は色澤可なるも、毛筋稍荒き傾あり、産額は前途有望なりと稱せらる。

半細絨 粗絨に屬すれども、比較的毛筋細くして長く、色澤も純白なるものあり、細絨に次ぎて紡績用として需要多し。

湖北棉にては東河即家郷産を第一となす、水氣少きを以て有名なり、産額約三十萬擔なり、此外湖北中等綿中にも間々之に類似するものあり、凡て現綿に就きて取捨肝要なり、河南、直隸、山西等の産中にも此種に屬するもの少からず。

以上は品質を標準とするものなるが、更に各産地に就て等級を見るに、其地方

の氣候風雨等の關係に由り多少異ると雖も、大體に於て家鄉棉(宋埠陽邏新洲)を最上とし、纖維の如き四分三吋あり、揚子江一帶及武昌縣(今鄂城縣)の物を第二位とし、漢水沿岸一帶の物を第三位とす。

黃陂 黃陂地方の棉花の如き、漢口棉中上等の部に屬し、上海棉と通州棉とを混同したるが如き品質にして、二十手以上の紡績糸を紡ぐに最も適す。

漢口棉の上等品は品質に於て殆ど通州棉に劣らざるにも拘はらず、通州棉に比して安價なるは全く漢口棉は良品と惡品とを混合するを以てなり、故に當業者は漢口棉を稱して混棉と云ふ。

裡河(漢水本支流々城)の棉花に至りては、稍黃褐色を帶び、纖維太く、且短くして硬く、光澤に乏し、隨つて價格も廉なり、而も此等の多くは百斤に付十二斤内外の含水量を有し居るもの少からず、故に百斤の棉花にして之を日本又上海に運送したる後三、四斤乃至七、八斤の減量を來す事少からず。

邊江棉は漢口を中心とする長江流域の産にして、品質は家鄉棉に次ぎ、漢水筋は上流地方を除けば、品位一般に劣れり、纖維短く太く黃色を帶び、光澤に乏し、本

邦に於ては蒲團棉として最も歡迎せらる、今左に湖北産各種の品質を擧ぐれば左の如し。

| 名稱                           | 光澤                    | 纖維      | 名稱   | 光澤               | 纖維    |
|------------------------------|-----------------------|---------|------|------------------|-------|
| 應城花                          | 純白にして光澤あり、            | 纖維細く長し、 | 田二河花 | 白                | 粗短し、  |
| 雲夢花                          | 光澤あり、                 | 同       | 武昌花  | 微黄を帶ぶ、           | 粗     |
| 孝感花                          | 不定                    | 同       | 朱河花  | 同                | 同     |
| 蔡甸花                          | 赤味を帶ぶ、                | 長く柔し、   | 家郷花  | 白                | 細く長し、 |
| 而して其出目を見るに實棉千斤を繰りて左の如き割合となる。 |                       |         |      |                  |       |
| 綠棉                           | 三六〇——四〇〇 <sub>斤</sub> |         | 棉實   | 六一六 <sub>斤</sub> |       |
| 黃棉                           | 九                     |         | 欠斤   | 九 <sub>斤</sub>   |       |
| 油棉                           | 一                     |         |      |                  |       |

是等都邑にては其附近の栽培地より集來する棉花を繰棉したる後、一包百二十斤乃至百六十斤の綿袋に詰め、之を漢口市場に輸送する慣習なり、湖北の棉花は他省のものと同様に大別して二種とす、即ち白色、褐色の二種是なり、然れ共此

等は種子本質の異なるに非ずして、元來の白色棉が風雨の爲め損ぜられて褐色に變じたるものなり、而して白色棉には黑實棉、白實棉の二種あり、黑實棉は其色黒く、含油量少きも、棉量白實棉に比して、多く且つ纖維亦稍強し、漢口附近に産する所の棉は多く此種に屬す。

更に漢口に於ける支那新聞紙の相場表に載せたる漢口棉の種類は大別して六種とす、即ち (一)河南花、(二)老河口花、(三)陝西花、(四)裏河花、(五)武昌花、(六)本廠花等なり。

陝西棉は品質最も良好なれ共、産額の幾分は鐵道或は黃河の便に依り、天津方面に移出せらるれども、最近漢口への出廻り多し、河南棉は多く河南省の北部に産すれ共、運賃の關係上天津方面に向けらるゝ爲め、漢口への出廻數量甚だ少し。裏河とは地理上より來れる名稱にして、揚子江を外河と稱するに對し、漢水其他の支流を總稱し、此流域に産する棉花は從て裏河花と稱す、本廠花は漢陽棉繰業者の手を経て市場に現はるゝ棉花にして、由來此地は繰棉業に従事するもの多く、往時四十餘戸に及びしが、外國綿布輸入せらるるに及び漸次其數を減じ、現

時十餘戸となれり、機械は足踏式(日本製)を用ゐ其數合して六百數十台あり、近郷各産地の實棉は殆ど此地に於て繰棉せらる。

今假りに豐作を豫想したる各産地市場に於ける出廻高は合計六〇〇、〇〇〇擔にして、其詳細を見るに次の如し。

|      |                     |       |                      |
|------|---------------------|-------|----------------------|
| 漢陽地方 | 四〇、〇〇〇 <sub>擔</sub> | 家郷地方  | 一二〇、〇〇〇 <sub>擔</sub> |
| 漢水沿岸 | 一七〇、〇〇〇             | 德安地方  | 八〇、〇〇〇               |
| 孝感地方 | 一〇、〇〇〇              | 武昌及邊江 | 一一〇、〇〇〇              |
| 黃州地方 | 一〇、〇〇〇              | 沙市地方  | 四〇、〇〇〇               |
| 襄河地方 | 二〇、〇〇〇              | 合計    | 六〇〇、〇〇〇              |

前記の如く各市場に出でたる棉花と雖も、直ちに其地方に消費せらるゝものあり、又は他地方に移出せらるゝものありて、此等内地需要も相應の額に上るが故に、實際漢口市場に出づるものは各産地出廻高合計の約六割と見らる可く、之河南、直隸、陝西、湖南各省の入荷約三萬擔を加へて、合計約四十萬擔が漢口の市場に於て取引せらるゝものと云ふべきか、而して漢口に於ては京漢鐵道にて運搬

し來る少量の北部棉の大智門停車場附近に於て賣買せらるゝあり、又沙市棉の直接漢口に入る等の事あるも、實際に於ては所謂漢口棉の約九割は漢陽の市場に於て取引せらるゝが故に、棉花市場の中心は實に漢口に非ずして、漢陽なるも、通常舊慣に依り漢口と稱し居れり。

### 第三 移入經路及輸送費

漢口は古來より舟楫の便多きを以て九州の會と稱せらる、されば棉花の運搬も過半河流を利用す、即ち揚子江沿岸の棉產地帯は勿論、其他の產地と雖も河流の便なきはなく、漢水を始めとし、環河、東河、西河等揚子江の支流は各產地と漢口とを連絡せり。

鐵道便に依るものは民船積に比し數倍の運賃を支拂はざるべからざるが故、陝西棉を除くの外、汽車便に依るものなし、長江筋は汽船に託す便あるも、運賃は民船に比し二倍を要するが故に商機を逸する憂なき商品は、今尙民船に依るもの多し。

今各產地より漢口に達する通路を擧げ、其取引市場を記するに次の如し。

鐵道に依るもの 此路に由るものは漢口大智門停車場附近の市場に於て賣  
買せらる

(一) 河南及直隸棉花は全部京漢鐵道にて漢口大智門停車場に送らる。

(二) 陝西棉の一部は河流又は陸路(馬車等)に依り京漢鐵道沿線に出で、更に汽  
車積せられ大智門停車場に到る。

水運に依るもの 此内一部分の沙市棉其他漢口荷造工場に到るものを除く  
外大部分は皆漢陽に到る。

(一) 陝西棉の一部は河流又は陸路に由り襄陽に出で漢水を下りて漢陽に到  
る。

(二) 樊城棉は漢水を下り漢陽に達す。

(三) 德安及其以西裡河一帶の棉花は漢水及其支流に依りて漢陽に至る。

(四) 孝感及黃州家郷の各地には環河、王河、東河、西河等、幾條の小流の揚子江に  
注ぐあり、故に先づ漢口の下流に出で、更に揚子江を溯りて漢水に入り漢陽  
に到る。

(五) 武昌及邊江棉は直ちに長江に依りて漢陽に集る。

(六) 湖南棉は洞庭湖を横ざり揚子江に出で漢陽に達す。

(七) 沙市棉の揚子江を下り來るものは輸出手續を了して漢口市場に出づるを例とす、從て輸出稅負擔の關係上漢陽市場に向ふものなく、漢口碼頭に陸揚せられ直ちに荷造工場に運ばる。

以上の如く僅かに二三萬擔に過ぎざる北部棉花を除きては、都て水運に依りて運搬せらるゝも、其支流の多くは幅極めて狭く、河水淺きを以て汽船を通ずる足るもの少く、偶々汽船又は曳船の便を藉るものありと雖も、天候惡しく輸送の危險なる場合、若しくは急流の爲め溯航し能はざる場合に限られ、概して民船にて百俵乃至二百俵を積載し來るのみ、而も支流の上流に於ては水淺く此等の民船も尙航行する能はざるを以て、僅かに二、三俵を小舟に載せて輸送し、更に大舟の通ずる處に至り積換を爲すもの少からず。

今棉產地より漢口に至る距離日程及運賃(一俵一六〇斤入)に付きて述べんに次の如し。

| 原產地      | 距離   | 日程  | 運費       |
|----------|------|-----|----------|
| 蔡甸       | 六〇支里 | 六時間 | 一〇〇文     |
| 漢川       | 一八〇  | 一日半 |          |
| 揚林口      | 二八五  |     |          |
| 田二河      | 三三〇  | 三日  | 二〇〇      |
| 樊城       | 一二四〇 | 二週間 | 八〇〇      |
| 雲夢       | 二九四  | 二日半 | 四五〇      |
| 孝感<br>鐵路 | 六〇四五 | 三日  | 四〇〇<br>仙 |
| 新州       | 二〇〇  | 五日  | 八〇〇<br>文 |
| 分水嘴      | 二七〇  | 二日  | 二〇〇      |
| 脈旺嘴      | 三〇〇  | 二日  | 二二〇      |
| 仙桃鎮      | 三六〇  | 三日  | 二六〇      |
| 皂市       | 三六〇  |     |          |
| 三叉埠      |      |     |          |